

ートの応力度、たわみ量、ひびわれ幅(屋外放置による幅の変動も含む)、ひびわれ内露筋などである。なお、供試体の地に鉄筋、コンクリートの圧縮強度、引張強度および曲げ強度用の試験体と同様に屋外に放置して置き、各々の耐久性の資料を得るようにしている。

3. 試験結果

まえきにも述べているように、現在は屋外放置期間1年の供試体の試験結果のみであるので本研究の中報報告として、3解析した例を表-1～表-3および図-2～図-4に示す。これらの参考については当日発表するものとして省略する。

本報告をまとめるにあたって
当公団の東京保全設計の中山氏、
自交建設技術研究所の山内氏に謝
意を表します。

文献(1)には「コンクリート」
1973年9月(コンクリートのひびわれ
特集)およびまとめている文献(2)
中の文献

(2) 同上「コンクリート」中の
土木建設部のひびわれ調査報告
西山, 正木, 秋元

図-2 平均ひびわれ幅と最大ひびわれ幅(Aタイプ)

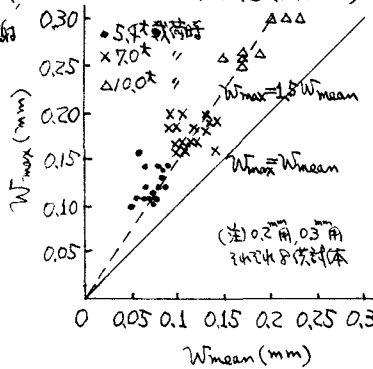


図-3 平均ひびわれ間隔と最大ひびわれ間隔

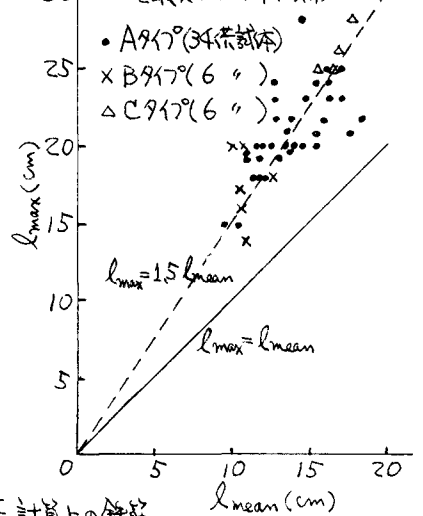


表-2 ひびわれ幅の分布

(Aタイプ0.2mm, 0.3mm用347枚8供試体)

ひびわれ幅 (mm)	0 ~0.05	0.06 ~0.10	0.11 ~0.15	0.16 ~0.20	0.20 ~0.25
5.4t 載荷時	43 (29.5%)	79 (54.1%)	24 (16.4%)	—	—
7.0t 載荷時	22 (15.1%)	37 (25.3%)	64 (43.8%)	23 (15.8%)	—
10.0t 載荷時	10 (13.3%)	13 (17.3%)	17 (22.7%)	25 (33.3%)	10 (13.3%)

表-3 ひびわれ間隔の分布

ひびわれ間隔 (cm)	0~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30
A917	22 (4.2%)	159 (30.3%)	164 (31.2%)	155 (29.0%)	24 (4.6%)	1 (0.7%)
B917	8 (8%)	48 (48%)	32 (32%)	12 (12%)	—	—
C917	1 (1.5%)	8 (11.9%)	17 (25.4%)	23 (34.3%)	10 (15.0%)	8 (11.9%)

表-1 Aタイプ供試体の屋外放置期間別降伏荷重および破壊荷重

ひびわれ幅	屋外放置	計算値(た)	実測値(た)		降伏		破壊		相対値	
			降伏荷重	破壊荷重	計算	計算	降伏	破壊		
0.2mm用	0年	12.0	14.5 14.5	15.5 15.5	1.21 1.17	1.29 1.29	—	—	—	—
	3ヶ月	12.0	14.0 14.5	16.5 17.0	1.17 1.21	1.38 1.42	1.00	1.08	—	—
	1年	12.4	14.5 14.5	17.5 17.5	1.17 1.17	1.41 1.41	1.02	1.10	—	—
0.3mm用	0年	12.0	14.5 14.5	15.2 15.2	1.17 1.17	1.27 1.27	—	—	—	—
	3ヶ月	12.0	14.0 14.0	16.6 16.3	1.17 1.17	1.38 1.36	0.97	1.08	—	—
	1年	12.4	14.0 13.5	16.0 16.5	1.13 1.09	1.29 1.33	0.95	1.07	—	—

図-4 計算上の鉄筋応力度と最大ひびわれ幅

